

◆低線量肺がん CT 検診問診票（ご記入ください）

1. 家族（親・兄弟姉妹）に肺がんの既往がありますか？

☐なし ☐あり（年齢：_____）

2. ご自身の既往歴をご記入ください

☐該当なし ☐肺結核 ☐胸膜炎 ☐肺炎 ☐じん肺 ☐気管支炎

☐その他(_____)

3. 今までにした仕事について

☐該当なし ☐金属加工 ☐木材加工 ☐粉塵・アスベスト・クロム等の取り扱い

☐農薬散布 ☐石材加工(採石・加工) ☐石綿加工 ☐印刷(有機溶剤取り扱い)

☐その後(_____)

4. 現在の呼吸器症状はありますか？（最近6か月以内）

☐特になし ☐咳 ☐痰 ☐息切れ ☐血痰

5. 喫煙状況について教えてください

☐喫煙をしていない

☐現在、喫煙している（1日およそ_____本、_____歳から）

☐過去喫煙歴あり（1日およそ_____本、_____歳から_____歳まで）

6. 過去に健康診断で胸部レントゲンやCTを受けたことはありますか？

☐なし ☐あり（時期・結果：_____）

7. 最近の体重減少はありますか？

☐なし ☐あり→何 kg：_____ kg

【同意書】

社会医療法人延山会 北成病院 院長 殿 (011-764-3021)

私は、この説明を受けた結果、低線量肺がん CT 検診を受けることに

同意（します・しません）。

- 本検診は診断を目的としたものではなく、肺がんの早期発見を目的としたものです。
- 検査結果により精密検査を勧められる場合があります。
- 検診で異常が認められない場合でも、将来の肺がん発症を完全に否定するものではありません。

記入日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

検診者様のお名前

（署名） _____

〈低線量肺がん CT 検診〉

ご説明と問診票・同意書

◆この検診の目的

- ・この検診は、肺がんを早期に発見することを目的としています。肺がんが発見された場合、早期に適切な治療を受けることで、命を奪われるような事態を防げる可能性が高くなります。
- ・日本で肺がんと診断される人は1年間に約12万人で、男女計で2番目に多いがんです。また、肺がんは日本におけるがんの死因の第一位で、1年間に約7.5万人が亡くなっています。肺がんと診断される人は40代から増加しはじめ、年齢が高くなるほど肺がんの罹患率が高くなる傾向です。

◆この検診により期待される利益

- ・胸部レントゲン写真では見えにくい部分に発生したがんや、胸部レントゲン写真では発見できないような微小な肺がんも、低線量肺がん CT 検診では、発見可能とされています。
- ・肺がん以外の病気(肺気腫、肺炎、縦隔腫瘍、心臓や血管の動脈硬化など)が発見されることもあります。
- ・検診の結果により禁煙につながったという例も多く挙げられています。

◆重喫煙者に対する低線量 CT 検査

- ・海外の多くの研究で、低線量肺がん CT 検診を受けている方の肺がん死亡率減少が報告されています。
- ・これらの研究結果を受け、日本でも2025年度から重喫煙者において、対策型検診及び任意型検診として実施が推奨されることになりました。(対象年齢は50-74歳、検診間隔は1年に1回)

◆ 検診を受けるにあたって知っておいていただきたいこと

- *喫煙習慣のある人・喫煙習慣のあった人が検診を受けると 3〜6割に「異常な影」が見つかるとされますが、その 90%以上は肺がんではありません。
- *その「異常な影」が肺がんかどうか診断するために、追加の検査が必要になることがあります。
- *がんかどうかわかるまでに、検診を受けなければ感じなかった、「肺がんだったらどうしよう」という精神的な不安を抱えることがあります。
- *この検診で使用する放射線の量は、通常の CT 検査の約 1/5〜1/10 程度と少ないですが、微量ながら被ばくがあります。しかし、低線量肺がん CT 検診を受けたことにより、新たにがんが発生したという報告はありません。 ※検診1回あたり：約 1.05mSv（通常の胸部 CT：約 7.14mSv）
- *検診で異常が認められない場合でも、将来の肺がん発症を完全に否定するものではありません。

◆肺がん以外の病気が発見される可能性

- ・低線量肺がん CT 検診では、撮像範囲に含まれる、心臓、大動脈、甲状腺、乳房、肝臓、脾臓、腎臓などの病気が発見される可能性があります。しかし、低線量肺がん CT 検診では、上記に示すような、肺がん以外の病気を発見することを目的とした検査ではありません。例えば、腹部や乳房や頸部に腫瘍があっても、発見できない場合が多いとお考えください。